

平成 31 年 度

(自 平成 31 年 4 月 1 日～至 令和 2 年 3 月 31 日)

事業報告書

公益財団法人 京都国際学生の家

事業報告書

当法人は、「京都に学ぶ各国学生の健全で有意義な共同生活を助成するとともに、その知性、徳性及び靈性の向上をはかり、併せて国際親善と相互理解の増進とに寄与し、もって不特定多数の公益に寄与することを目的とする。」（定款第3条）ことを目的としている。

世界各国から国際学術都市京都に來り学ぶ外国人学生と日本人学生に、学寮という生活の場を提供し、月間・年間を通じた行事や毎日の地道な活動を通じて、ハウスの創始者であるスイス人牧師、故ウエルナー・コーラ（Werner Kohler）博士の提唱した「共同の生」を体験させることによって、この国際理解と親善の増進を計る。この「共同の生」とは、我々の現存在の表面的な調和的共存を意味しているのではなく、異なる国家あるいは民族の間に厳然として存在する人種、宗教、慣習、文化さらにはイデオロギーといったものの相違を、寮生相互に対決（confront）させ、これらの相違を互いに認め合った上で、一個の人格としての「出会い（Begegnung）」を体験させることである。この「出会い」を通じて、相互の相違を認識し、相互に承認し合うという、きわめて厳しい努力と体験を通じて得られる寛容（Tolerance）が、人類普遍の願望である人類共存の道を達成する有力な手段であると信じ、この「出会いの家（別称）」という屋根の下で営まれる「共同の生」の実現と維持を続けている。開館以来 54 年間に、寮生用 34 室を利用した寮生は世界の 82 ケ国から 1035 名、併設されている研究員用 11 室を利用した学者、研究者は 96 ケ国から 3088 名の多きにのぼる。これらの寮生、研究者達は、京都における学際的研さんの成果と共に、この「家」で体験した人間同士の愛と連帯意識をもって世界中で活躍している。

半世紀が過ぎ、建物は老朽化し、耐震補強や電気・水道などを改修する「本館の耐震改修」と「研究者棟の建て替え」に直面し、募金委員会を 2017 年 6 月に立ち上げ、本格的な寄付活動を行ってきた。「国際平和」の実現を祈念して、今後も世界の若者に本学寮を提供するため、京都商工会議所の賛同を得て、京都の企業を中心に募金活動を実施した。

当初の募金目標の達成が進まない中、建物の耐震強度の補強を遅らせる訳にはいかず、工事内容を再検討し、計画を 2 期に分割して推進することにした。

- 1) 本館棟：第 1 期改修工事として、耐震、最低限のインフラ（給排水、ガス、電気）設備に向けて、工事を開始した。
- 2) 研究者棟：第 2 期新築工事として 1 億円を募金活動で調達し、第 1 期の耐震・改修工事後に行う。

I. 事業の概況

1) 学生及び研究者の国際交流の場としての宿泊施設の設置及び運営

(1) 京都「国際学生の家」

	学生用	研究者用	備 考
収容定員	34 室	11 室	研究者用にはツインルーム 3 室あり

(2) 利用状況

○学生の部（平成 31 年 4 月より令和 2 年 3 月）

国 別	人員	研 究 機 関 別	人員
日本	15	京都大学	24
中国	4	京都産業大学	3
台湾	3	立命館大学	3
インド	3	NCC 宗教研究所	2
韓国	2	京都女子大学	2
ドイツ	2	京都府立大学	1
ベトナム	1	京都造形芸術大学	1
インドネシア	1		
フランス	1		
オランダ	1		
ペルー	1		
マダガスカル	1		
ジンバブエ	1		
合 計	36	合 計	36

○研究者・学者の部

アメリカ	1	スイス	1
イタリア	1	ドイツ	2
インド	3	フランス	2
エストニア	1	香港	2
オランダ	3	マレーシア	1
		合 計	17

(3) 学生及び研究者の生活・勉学の援助及びカウンセリング

原則として、一家族が、ハウスペアレント（学寮管理者）として、学寮内に居住して、寮生の生活のアドバイス、勉学援助やカウンセリングなどに当たっている。そのハウスペアレントを補助する機関として、学生の入寮時の面接、カウンセリングなどを行う学寮運営委員会（ハウスコミッティー）が組織され、活動している。

(4) 行事・活動：

下記のような月間・年間を通じた行事や日常活動を通じて、異なる国家あるいは民族の間に厳然として存在する人種、宗教、慣習、文化さらにはイデオロギーといったものの相違を、入寮学生・研究者相互に対決させ、これらの相違を互いに認め合った上で、一個の人格として出会う「共同の生」を体験させている。この様な相互の相違を認識し、相互に承認し合うという、きわめて厳しい努力と体験を通じて得られる寛容が、人類普遍の願望である人類共存の道を達成する有力な手段であり、このことが同じ屋根の下で営まれる「共同の生」を通じて実現できると期待している。

各寮生には、ハウスの維持のために必要な仕事（当番：例として、ハウスキーパー当番、スポーツ当番、コモンミール当番など）を分担させている。また、一緒に食事や音楽、スポーツ等を楽しめるような共有設備（共有台所、ピアノ、広い応接室、卓球台、ビリヤード、バレーボールコート等）を備え、自然に「共同の生」に参加できるような仕組みとしている。

① 月間定例行事

○ほぼ月に2回 19：30～21：00 チーム・ミーティング

半期ごとに学生から選出されたチェアパーソン、バイスチェアパーソン、書記、会計とハウスペアレントがチームという自治組織を作り、全員参加のハウス・

ミーティングの前に、ハウスで起こる諸問題やセミナー等を含めた種々の行事の打ち合わせを行っている。

○ほぼ月に2回 18:30~20:30 コモン・ミール (夕食会)

「コモンミール」は、当番制で作る寮生の自国料理を皆で楽しむ夕食会のことで、寮生達が友好を深め、異なった国々の文化を理解する第一歩であり、「共同の生」の入り口であると考えている。皆と一緒に「会食をする」ということは、多様な地域の文化・慣習・宗教などを一番簡単に、しかも深く感じることでできる行為だと私たちは考えて行っている。

○ほぼ月に2回 20:30~22:00 ハウス・ミーティング

コモンミールの後に、ハウスペアレントも含めて、寮生全員参加の一番重要な会議である。寮生のチェアパーソンを議長に、ハウスで起こる諸問題を取り上げ、全員で議論を闘わせ、解決への努力をしながら「共同の生」を体感している。

② 年間定例行事

○新入生歓迎会：平成31年4月13日(土)、令和1年10月12日(土)

前期と後期で年に2回、寮の理事やハウスコミッティの委員が参加。理事長や理事の挨拶後、国際寮の生活に早く馴染めるよう、寮生の委員によるハウスのガイダンス、及び新入生の自己紹介等が行なわれた。

○国際食べ物祭り：令和1年7月13日(土)

「食を通じた国際親善活動」と位置づけられている行事で、各国(9~10カ国)留学生のお国自慢の料理を、ダンスパーティ等でご迷惑をお掛けしているHdB周辺の住民の皆さんや、寄附を下さった方々や友人を招待して、食を通じて、寮の雰囲気や世界を実感してもらう定例行事。用意した300食ほどが2時間ほどで完食された。

○感謝祭：令和1年11月16日(土)

学寮に寄附して下さった方々や団体、日頃お世話になっている人達をご招待して、各国のお国自慢の料理の腕を振るい、感謝の気持ちと学寮が多くの人達の善意で成立していることを理解する定例行事が行われた。

○セミナー

前期：令和1年5月11日（土）

京大ダブルダッチサークル指導でダブルダッチ体験

後期：令和1年11月30日（土）

森陶器館から講師を迎え、陶芸体験を行った。

○スポーツ大会：平成31年4月20日（土）、令和1年10月20日（日）、

令和2年2月1日（日）

本年は三度、スポーツを通じて、寮生達の交流と親睦を兼ねたスポーツ大会を行った。

○ダンスパーティ（レジデント主催行事）：令和1年6月29日（土）

年に1度、友人や知り合いを招待して、交流や親睦をはかると共に、学寮の宣伝を兼ねた行事（ダンスパーティ）を開催した。また、本行事は、「チーム」の活動資金を調達する目的もある。

○クリスマス・パーティ：令和1年12月14日（土）

日本的な意味でのクリスマスの名を借りた寮生達の「忘年会」である。学寮の役員、親しい友人やOB達を招待して、自慢の料理やケーキを作り、一緒に食事をし、余興など、一年を振り返りながら、親睦を図る楽しい行事であった。

○クリーニング・デイ（大掃除）：令和1年7月14日（日）、12月15日（日）

年に2度、寮生全員で、学寮の共有スペースである卓球室、ビリヤード室、応接室、運動場、洗濯室などを清掃する。自分たちの生活空間を自分たちで、清掃し、整理整頓にすることで、生活空間を快適にする目的で行った。

以上のほか、国際ソロプチミストの招待を受けて、日本の文化や歴史を学習して、国際交流に努めた。また、左京消防署の指導の下、消防訓練も行い有事に備えた。

③ 図書の刊行頒布

会誌等の刊行：「2019年度 YEAR BOOK」の刊行。

学寮の公式の出版物である。一年間の学生達の活動報告や、元寮生の経験談、寮としての公式の活動を記録して、関係者に配布して、学寮の活動を理解して頂く出版物である。特に、昨年及び本年の号は、本学寮の耐震及び改修工事、研究所棟新築につい

での必要性について、理解して頂く内容の編集が行われた。そこで、学生達の一年間の報告などを別冊として、出版された。

2) 不動産等の管理と運営

行事・活動：

寮の空きスペースを利用して、駐車場を設置し、後援会会員に貸与を行っている。区画数 19 台あり、空きが出た場合には、駐車場に掲示するとともに、近隣住民の後援会会員に連絡し、募集を行っている。

II. 庶務の概要

1) 役員

理事長	内 海 博 司	京都大学名誉教授
常務理事	吉 川 晃 史	関西学院大学准教授、公認会計士
理事	崔 英 樹	京都市青少年科学センター主事
	上 村 多恵子	京南倉庫（株）代表取締役社長
	村 田 翼 夫	筑波大学名誉教授
	嘉 田 良 平	四条畷学園大学教授
	吉 村 一 良	京都大学教授
	RUSTERHOLZ Andreas	関西学院大学文学部教授
	深 海 八 郎	眺八海倶楽部総支配人
	永 井 千 秋	元神戸大学医工連携コース 客員教授

監事	浅 田 拓 史	大阪経済大学准教授、公認会計士
	折 田 康 広	弁護士
	秋 津 元 輝	京都大学教授

学寮運営委員長	山 田 祐 仁	学校法人辻料理学館
学寮運営委員	坂 口 貴 司	三菱電機（株）
	鈴 木 あるの	京都大学講師
	タ ナ ゴ ナ ン ジーン	近畿大学講師
	デイヴィス ピーター	テレコグニックス CEO
	戸口田 淳 也	京都大学教授
	松 橋 眞 生	元ハウス・ファーザー
	長谷川 真 人	京都大学教授
	北 島 薫	元ハウス・マザー
	崔 英 樹	京都市青少年科学センター職員

2) 評議員

岩 崎 隆 二	和晃技研(株)代表取締役社長
中 島 理一郎	元同志社大学教授
吉 田 和 男	京都大学名誉教授
西 尾 英之助	京都日独協会会長
山 田 祐 仁	学校法人辻料理学館

第 20 回 令和 1.12.22	1. 耐震・修繕工事見直しの件 (財団の将来方針を含む)	承認
	2. 学寮管理運営規程 (管理及び運営の体制)の改訂について	承認
	3. 常務理事選任の件	承認
第 21 回 令和 2.3.8	1. 第 20 回理事会議事録の承認の件	承認
	2. 令和 2 年度事業計画の件	承認
	3. 令和 2 年度予算の件	承認
	4. HdB の募金活動の件	承認
	5. 第 14 回評議員会開催の件	承認

7) 行政官庁の指示に関する事項

該当なし

8) 契約に関する事項

該当なし

9) 寄附金等に関する事項

(1) 寄附金・寄附物品 (使途指定なし)

寄附者 (敬称略・順不同) : 財団の維持及び活動経費として受け入れ、目的に応じて支出した。

オサカ病院、株式会社イセト一、京都合同会計、京都ボーイスカウト第 42 団谷口平八朗、クリニックいのうえ井上勝六、ジーケージャパンエージェンシー株式会社、宗教学人日本基督教団錦林教会、淡交社、チームラッシー、モリカワ商事、有限会社エムティーエヌ 青木みどり、有限会社ハイナン土屋俊宏 Ashif Eqbal、Dr Heinrich Reinfried、Nehal Hasnine、Tang Mengjia、Tsai You Shan、Hofmann,Onno Jakob、TUDEU KHONGORZUL、WELSH Richard Louis、HUANG,Yin-Hsuan、青木みどり、秋津元輝、井上勲次、今西二郎、岩田忠久、岩永勉、岩沼省吾、上田学、内本陽子、鶴塚健、内海 匡人、大久保嘉高、大西正哉、岡本徳子、荻原悦子、小暮 智一、小野 公二、小野寺良信、笠原たか、片山重正、嘉田良平、金澤成保、鎌野幸子、鴨田昭代、河瀬 光、川野家稔、カンタトーレ、木下研一、木原文太左右衛門、金盛彦、窪田弘、倉田麻里、小西淳二、小西喬郎、木葉丈司、崔英樹、坂口貴司、佐藤利弘、澤田正樹、塩田浩平、シエイエイ、島田義也、清水暁子、清水安代、杉本節子、杉山喬一、鈴木武夫、鈴木松郎、高井道夫、高木町、田中徳壽、納屋嘉人、陳怡君、寺本美智子、富田弘子、富永芳徳、永井千秋、中

島保子、中島理一郎、仲谷正博、成田康昭、新居哲、西尾英之助、西川清子、花伝 西村清子、西本太観、野澤眞司、パクチスル、ハスナイン・ネハル、早川和夫、坂野泰治、平松幸三、平見松夫、深海八郎、福井敏明、福井富美、福本和久、舩津雅夫、古川千佳、細川治、前上英二、前川佳世子、眞木恵子、松田敬一、松本紘、三浦一郎、三井紀子、美濃導彦、村上雅子、村崎直美、村田翼夫、牟禮浩子、森 洋一、柳田充弘、藪田定男、山岸秀夫、山口忠彦、山下進一、楊 方、義家敏正、吉武泰俊、吉村俊之、和田 裕代、匿名四名

合計 2,185,674 円

(2) 寄附金 (研究者棟新築と本館耐震補強・改修工事費に用途指定)

寄附者 (敬称略・順不同)
 NCC 宗教研究所、株式会社島津製作所、京都仏教会、福田金属箔工業 福田健、秋津元輝、荒木朋子、石原ゆき子、井上富子、岩田忠久、上村多恵子、内海博司、大畑浩志、大宮きみ子、香月桂子、川野家稔、川本治、北島薫、木原文太左右衛門、窪田弘、琴浦良彦、斉藤郁子、櫻井真理、佐藤定生、四方八洲男、渋谷和彦、シビレジルモンド、外村中、高崎英雄、竹田洋子、辻正樹、土居 貞往、十河智江子、内藤義弘、永井千秋、中條雅子、奈倉道隆、馬場博子、平松幸三、深見 祥弘、福西勝利、古川彰、美濃導彦、村崎直美、森棟公夫、柳田由紀子、山岸秀夫、山口忠彦、山田祐仁、山本 攻、山本慶一

合計 2,307,330 円

(3) 補助金・援助金

補助金の目的	補助者	補助金額	備考
外国人留学生対策事業	京都市	660,630 円	補助目的に応じた事業に支出

10) 基本金に関する事項

本年度末現在の基本金は下記のとおり。 (円)

区分	項目	金額
基本金	ライオンズクラブ (27LC) 京都、西、南、洛南、洛陽、鴨川、桂、北桑田、 洛東、堀川、東、華頂、洛中、みやこ、岡崎、 平安、葵、橘、紫明、北、洛北、桃山、山城、 乙訓、宇治、城陽、綴喜	13,400,000